

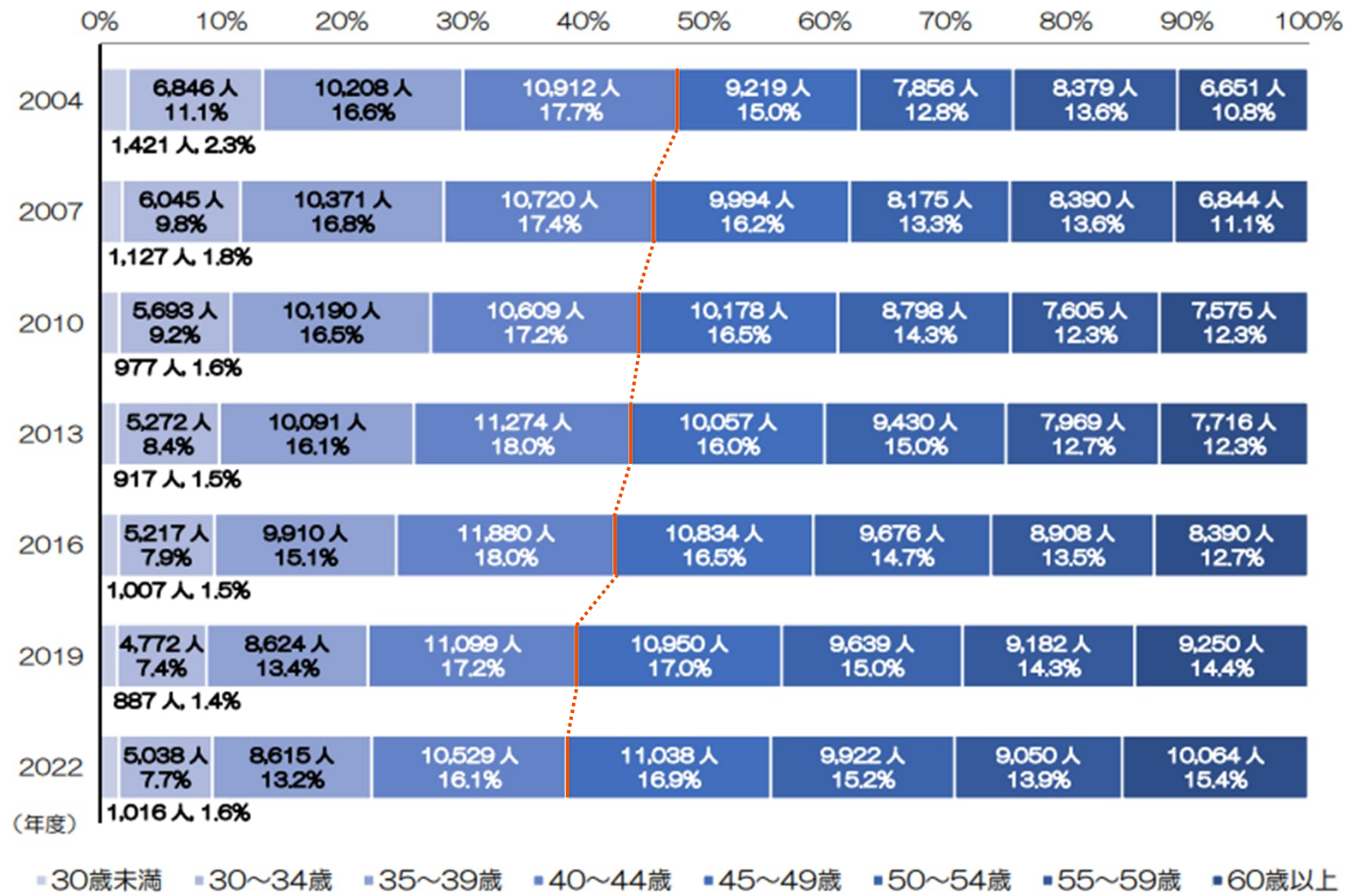
なぜ、今、組織単位で若手研究者の育成に力をいれるべきなのか

2026年3月5日

なぜ、今、組織単位で若手研究者の育成に力をいれるべきなのか

若手研究者は、日本の研究力を支える大きな原動力です。
しかし、この20年間で、若手研究者の数は減少し続けてきました

【国立大学の年齢別本務教員割合*】



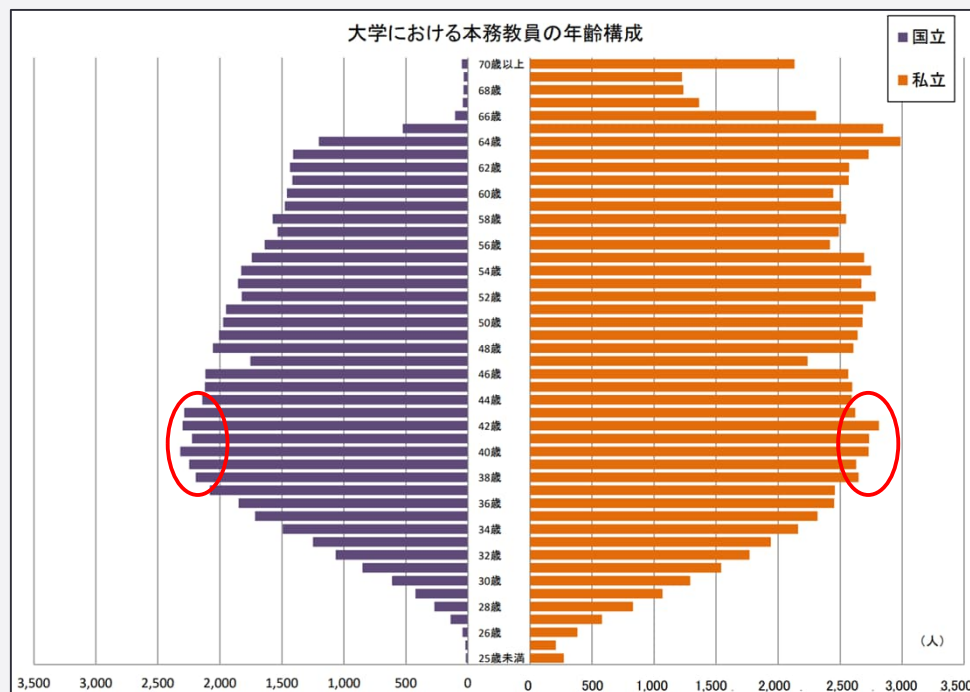
*(出典)国立大学協会「国立大学法人 基礎資料集」(2024年3月31日)

なぜ、今、組織単位で若手研究者の育成に力をいれるべきなのか

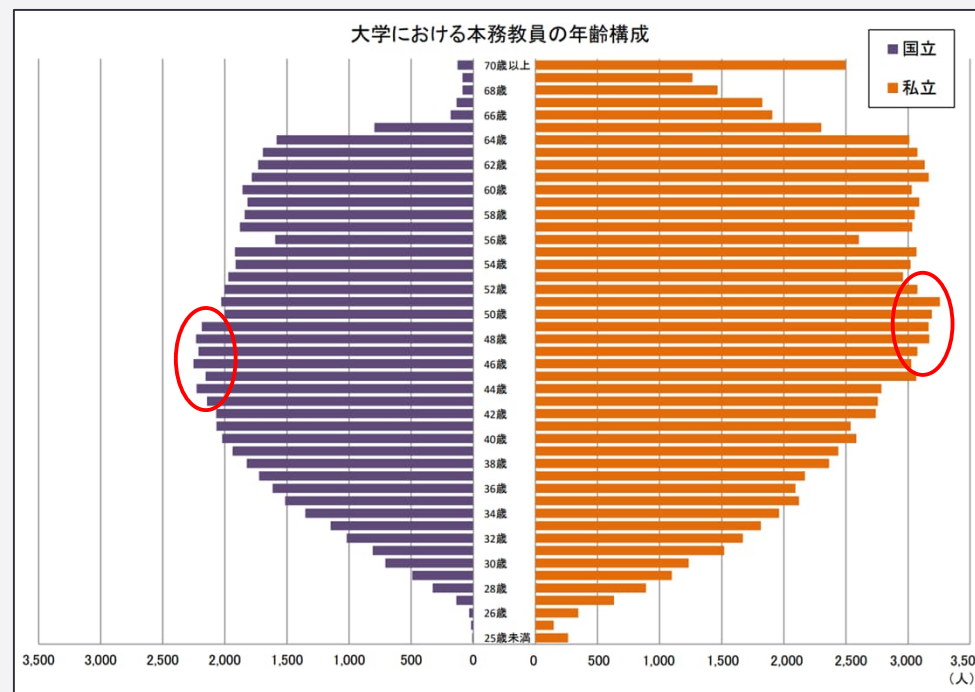
この10年も若手研究者の減少傾向は顕著です。この傾向を解決するためには、年齢構成の改善とともに、若手研究者の個人の能力開発が重要と考えられます

【大学における本務教員の年齢構成*】

平成25年度（2013年度）



令和4年度（2022年度）



*(出典)文部科学省「令和4年度学校教員統計(学校教員統計調査の結果)」(2024年3月27日) 3

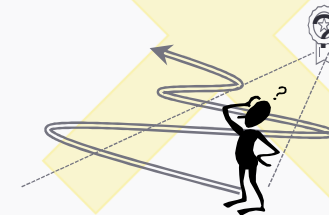
なぜ、今、組織単位で若手研究者の育成に力をいれるべきなのか

日本が再び世界の中心で輝くために若手研究者の育成は急務であり、継続的で組織的な若手研究者育成の仕組みの構築が必要です



As-Is : 担当者・所属研究室別の研究者育成

担当者や所属研究室別の研究者育成では、スキルやリソースが安定せず、「継続性」、「部局間を跨ぐ連携」、「学内での育成ノウハウの蓄積」等、様々な観点で限界があります。



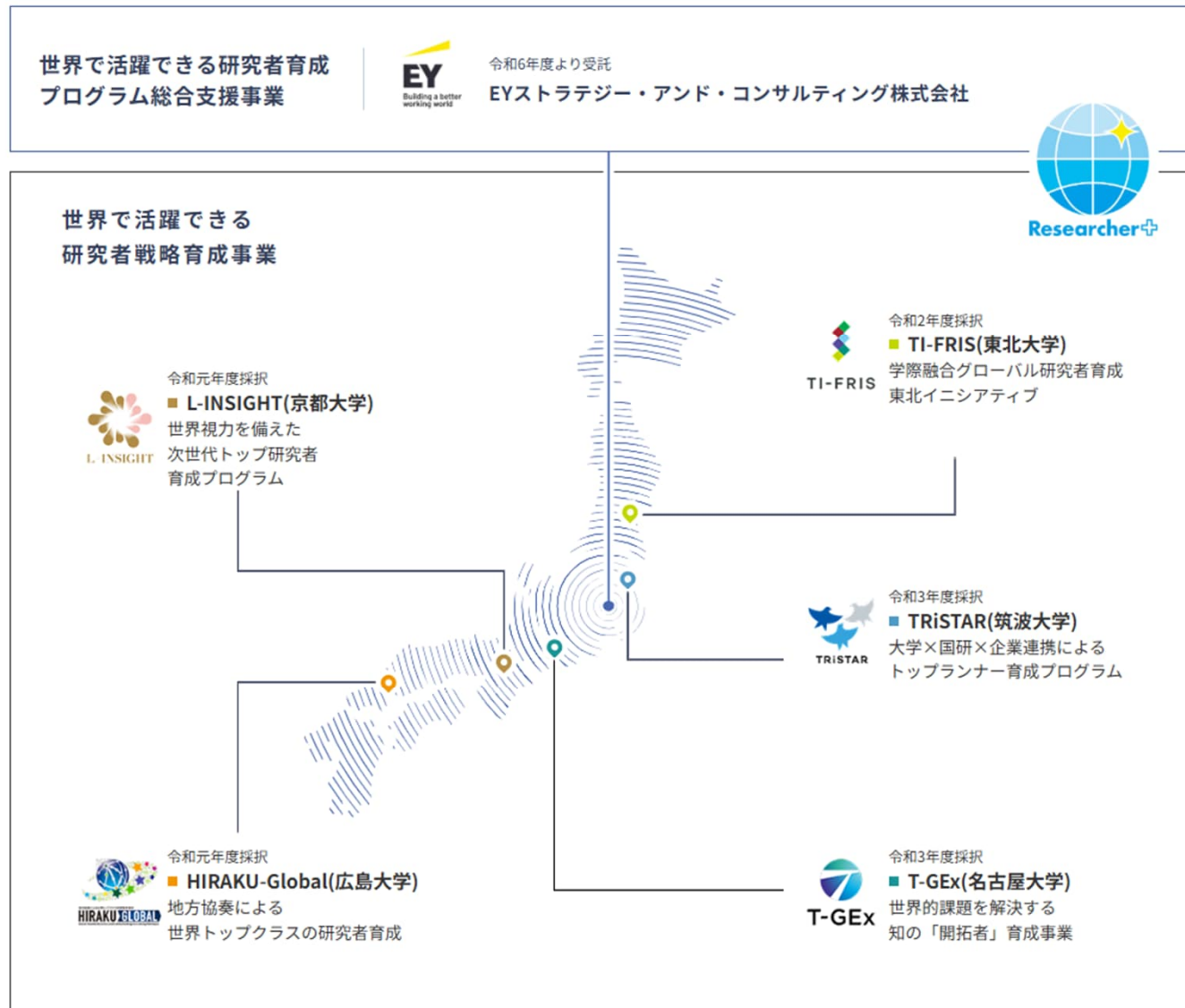
To-Be : 継続的・組織的な研究者育成

研究者の研究活動サイクルを円滑に回し、研究者の能力開発を実現するためには、継続的・組織的な若手研究者育成の仕組みを構築する必要があります。



なぜ、今、組織単位で若手研究者の育成に力をいれるべきなのか

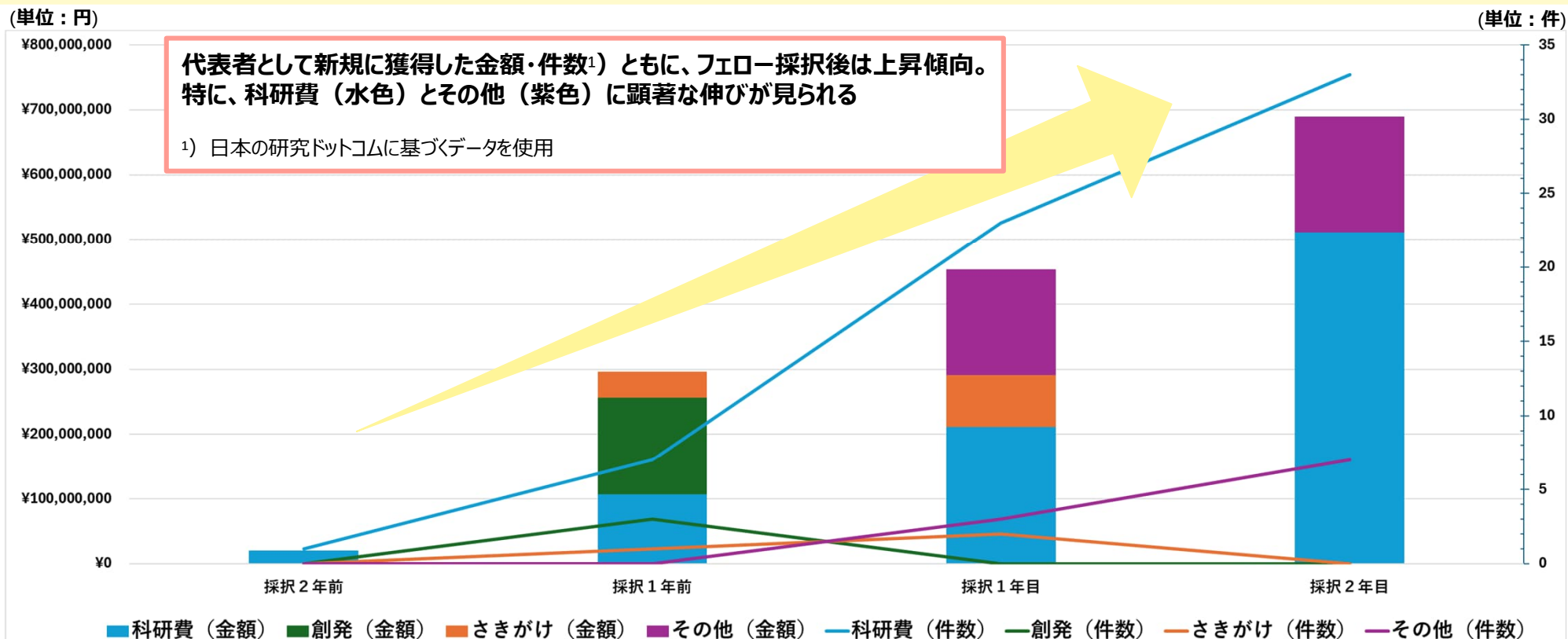
Researcher+（リサーチープラス）とは、2つの若手研究者育成事業の総称であり、世界で活躍できる研究者を組織的に育成するためのプログラムの開発を行っています



なぜ、今、組織単位で若手研究者の育成に力をいれるべきなのか

Researcher+で育成された若手研究者には、研究費獲得額・獲得種別が多様化する傾向がみられ、これは組織的な若手研究者育成が生みうる効果の一つであると考えられます

2022～2024年度に採択されたフェロー・総合支援事業支援者が、代表者として新規に獲得した公的研究費（N=102）



考察 ・ 課題

- 科研費の金額（新規獲得額）が伸びていることから、**関連する研究力の厚み指標も伸びていると推測**できる
- フェロー採択後にその他（金額・件数）が伸びているが、これはASPIREなどの国際共同研究系、大学発新産業創出基金事業などの**社会実装系**を獲得していることが主な要因であった。このことから、フェロー採択後は国・地域、分野、産官学を超えた大型の研究に発展する傾向が見られる可能性がある。
- ただし、本調査結果はResearcher+事業の効果以外にも、科研費の申請サイクルや、調査対象者の環境変化など、様々な要因が絡んだ結果と推測できる。今後、対象期間の拡大や専門分野を考慮した適切なコントロール群との比較を含め、継続調査が必要である。

なぜ、今、組織単位で若手研究者の育成に力をいれるべきなのか

Researcher + 事業で支援された若手研究者には研究費の獲得だけでなく、研究ネットワークの拡大などの効果も見られました

【総合支援事業にて実施した支援と育成効果】

研究+αの活動支援プログラム ～あなたの力で新しい世界をきりひらく～

Researcher Development Supporting Program
—Create Your Research World—



竹村先生（ヒト脳マッピング分野における国際連携ネットワークの創成）

- ◆ 国際学会OHBM*理事として学会運営・規約改定・アワード選定を担当
- ◆ 2028年のOHBM日本招致を主導
- ◆ 学会運営と研究を両立し、若手研究者のキャリアパス多様化を提唱
- ◆ オンライン・対面の学会運営の違いを経験し、国際ネットワーク構築を推進

効果

➡ 国際学会の招致を通じ、日本の研究コミュニティを世界基準に引き上げ

*OHBM: Organization for Human Brain Mapping(国際ヒト脳マッピング学会)

なぜ、今、組織単位で若手研究者の育成に力をいれるべきなのか

本日は戦略育成事業の各実施機関のPMの先生方に、各実施機関での「取組とその育成効果」についてご講演いただきます。ぜひResearcher+で開発された取組を自大学に取り入れることを検討していただけますと幸いです

【本日の戦略育成事業からの講演者】

石川冬木 PM



Tony Z Jia PM



早瀬敏幸 PM



大矢晃久 PM



武田宏子 PM

